

国語科より

【受験生小論文】

1. ご用意いただくものと配付するもの

① 予め用意して **Gnoble** の授業に持参すべきもの

筆記具：鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、ペン、マーカーなど、お好みのもの

授業中の板書はあまりありませんが、授業で話す内容をどんどんメモをする必要があります。自分が扱いやすい筆記具を用意しておいて下さい。

スマートフォン：ポケット代の範囲で気軽に検索できる状態にしておいて下さい

授業中に使用します。小論文の学習にあたって、スマホは辞書のようなものになります。必ず準備してくださいますように、お願いいたします。

(諸事情により準備できない場合、別方法をアドバイスさせていただきます)

神崎史彦 著「小論文の完全ネタ本」文英堂

※ 社会科学系一編

※ 人文・教育系一編

※ 自然科学系一編

※ 医歯薬系／看護・医療系一編

自分自身の志望学部に合わせて購入しておいて下さい(複数冊になる場合もあります。ご相談下さい)。授業中に使用したり言及したりすることが、非常に多くあります。辞書のように使うこともあります。

② 授業内では使用しないが、ご用意いただきたいもの

「赤本」「青本」などの過去問演習用教材(ネット上の過去問でも構いません)

授業においては入試小論文過去問を丁寧に解説いたしますが、それ以外の志望校の過去問もやっておく必要があります(特に慶應義塾大学商学部の小論文)。急ぐ必要はありませんが、最新年度の入試問題まで反映されたものが発売され次第、購入しておきましょう。

③ **Gnoble** の授業内で配付されるもの

通常授業テキスト：G1-1、G2-1、G3-1、G4-1、E1-1、E2-1、E3-1、E4-1 の授業内で配付

季節講習テキスト：季節講習初日に配付(各回分野別数冊)

過去問等プリント：随時配付

2. 授業の進み方と日々の取り組み

① 進み方:通常講義・季節講習共通です(時期に応じて比重が変わります)

- [1] 時事問題 ディスカッション:解説
- [2] 時事問題 演習:提出
- [3] テキスト or プリント問題(過去問等) ディスカッション:解説
- [4] テキスト or プリント問題(過去問等) 演習:提出
- [5] 添削例の紹介

[1]・[2]では直近のニュースをもとに、[3]・[4]では実際の入試問題をもとに質疑応答を行い、問題点と解決策についての思考訓練の場とします。哲学的・倫理的思考や歴史的思考に裏付けられた学問的思考訓練および現実的政治・経済に基づく思考訓練です。そのうえで演習を行います。こうすることで、実際の入試における論述力の源を強固に築き上げます。また[5]については、「他人のふり見て我がふり直せ」と申します。実際の添削例を紹介し、様々な点を共有して頂くようにいたします。この「他者の添削を見る」ということが、極めて重要かつ効果的なのです。(もちろん、事前に本人の了解をとりますので、ご安心下さい)

◎ 参考 : 小タームごとに取り組むテーマ(季節講習は)

- G1/E1 ターム 人文科学系(文学部・教育学部・心理学部……等々)
 - G2/E2 ターム 経済学系(経済学部・商学部・環境情報学部……等々)
 - G3/E3 ターム 法学系(法学部・総合政策学部……等々)
 - G4/E4 ターム 医歯薬看護系(医歯薬看護学部……等々)
- 季節講習・・・「文系小論文」⇒ 全日文系全テーマ / 「医学部小論文」⇒ 全日医歯薬系

※ 受講は各個人の状況に合わせて頂きます。相談に応じます。

※ GタームとEタームとでは授業内容は異なります。

※ 第一志望が慶應文系の場合、G4/E4 以外のすべての受講をおすすめいたします。

② 日々の取り組み

[1] 授業の復習 : 解説の再現

「復習」とはなんですか? **Gnoble** では「復習完了=授業が再現できる状態」と考えています。授業があった日は、その日のうちに **Gnoble** での 120 分の授業内容の要点を、ノートも何も見ずに 10~30 分で解説できる状態になるまで、練習して下さい。意外とおぼえられていない、頭に入っていない、理解できていない自分に気づくはずですが、この「気づき」こそが重要であり、それによって真剣味が増しますし、ヤル気も倍増するでしょう。

[2] 授業の復習：演習の完成

授業中に取り組んだ未完了の演習課題があると思います。それを完成させましょう。夏まではあまり時間制限にとらわれず、考え抜いて最高の答案を作成することに注力しましょう。夏以降は「制限時間内に作成」「その後、考え抜いて仕上げる」の二段階方式で取り組みましょう。

[3] 基礎の確認作業：ニュースのチェック

日々のニュースを意識的にチェックし、小論文で必要となる時事問題知識を蓄えていきましょう。具体的には、一つひとつのニュースを、どのような小論文のテーマに結びつけることができるか、という視点で捉えるのです。すなわち「具体的なニュース」を「一般的なテーマ」に抽象化する作業を行い、それを記録するのです。その際には「ネタ本」等を効果的に使うことができるでしょう。

[4] 基礎の確認作業：「ネタ本」の熟読

小論文を書くにあたっては、ある程度の基礎知識は必須です。この基礎知識を理解しておぼえるためにも「ネタ本」を熟読せねばなりません。特に「テーマ解説」「関連キーワード」を徹底的に読み込みましょう。その際は「見ながら音読」⇒「見ずに音読」という練習をしましょう。

[5] 参考図書を読む

「ネタ本」は必須ですが、以下の本を読んでおくことも良いでしょう。

- ◎ 荻谷剛彦 著「知的複眼思考法」講談社
- ◎ 長尾達也 著「小論文を学ぶ」山川出版社
- ◎ 細水正行 著「現代科学の知的論点」数研出版

[6] 過去問に取り組む

なるべく早く過去問に取り組んでみましょう。その際、夏までは時間を気にせず、徹底的に考え抜いて書いて下さい。夏以降は時間計測＋考え抜く、という二段階で書きましょう。これらはもちろん、添削いたします。